

# 29年6月分 素材生産業者の活動・先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成29年 6月1日～ 29年6月10日

## 2. 調査実施方法

全国の素材生産業者に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。  
6月分の回答企業数は8社である。

## 3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={「増加」の評価を行った回答の割合}×2+{「やや増加」の評価を行った回答の割合}-{「減少」の評価を行った回答の割合}×2-{「やや減少」の評価を行った回答の割合}÷2  
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

## 4. 調査結果の概要

### 素材生産動向

品目		29/6月	7月	8月
伐採動向	スギ	△ 37.5	0.0	12.5
	ヒノキ	△ 16.7	16.7	16.7
	カラマツ	△ 12.5	△ 12.5	△ 12.5
	エゾ・トド	△ 33.3	25.0	25.0
出荷・販売動向	スギ	△ 30.0	0.0	10.0
	ヒノキ	25.0	12.5	12.5
	カラマツ	△ 12.5	△ 12.5	△ 25.0
	エゾ・トド	0.0	0.0	0.0
手持立木 在庫動向	スギ	△ 12.5	25.0	12.5
	ヒノキ	0.0	0.0	0.0
	カラマツ	16.7	16.7	△ 16.7
	エゾ・トド	16.7	0.0	0.0

・スギの伐採動向は、6月の減少が7月は横ばい、8月は増加に。ヒノキは6月の減少が7月、8月は増加に。カラマツは3カ月連続で減少。エゾ・トドは6月の減少が7月、8月は増加に。

・スギの出荷・販売動向は、6月の減少が7月横ばい、8月は増加に。ヒノキは3カ月連続で増加。カラマツは3カ月連続で減少。エゾ・トドは3カ月連続横ばいで推移。

・スギの手持立木在庫は、6月の減少が7月、8月は増加に。ヒノキは3カ月連続横ばいで推移。カラマツは6月、7月の増加が8月は減少に。エゾ・トドは6月の増加が7月、8月は横ばいに。

### モニターからのコメント

#### (伐採動向)

- ・現在、伐採しているトドマツの主伐が6月上旬に終了し、6月中旬からは国有林から受注した素材生産請負のカラマツ間伐の伐採に入る。このため、カラマツの伐採動向がやや増加する（北海道）。
- ・国有林の請負事業を継続中（北海道）。
- ・スギの伐採は控え目に、カラマツの伐採は手控えている（東北）。
- ・現在、造林事業に従事しているので、伐採は行っていない（東北）。
- ・伐採は、スギの主伐を行っている（中国）。
- ・伐採はスギ間伐を実施している（九州）。

#### (出材・販売動向)

- ・流通材が不足しているので出材調整はない。樹種にかかわらず販売動向は良好だ。ただトラックが不足しているので、運材が遅れている（北海道）。
- ・出材の調整はなし（北海道）。
- ・スギの販売は弱含み、カラマツは小高く安定している（東北）。

#### (手持ち立木在庫)

- ・手持ちの立木在庫が不足しているので、6月以降の国有林立木公売では積極的に応札する予定だ（北海道）。
- ・国有林の請負事業を実施中なので手持ち立木の作業は行っていない（北海道）。
- ・在庫は、スギは買入れを手控えている。カラマツは控え目にしている（東北）。